

第六十二師團通信隊長被仰付(昭和十八年六月十日附)

三、第六十二師團通信隊編成表並將核准士官職員表別紙、如シ

七月一日 通信隊ハ編成完結ニ件ヒ師團司令部ト

共第六十三旅團司令部同第六十四旅團司令部間ノ無線

連絡ニ任ス

但シ師團司令部下歩兵第六十四旅團司令部間ハ旅團司令

部潞安到着ト共ニ開始ス

七月三日 通信隊主力ハ師團司令部(太原ニアリ)

ノ榆次進駐ニ先立テ列車輸送ニ依リ陽泉出發

榆次ニ移駐

第二中隊ハ依然陽泉ニ在リテ師團管内警備無

線通信ニ任スルノ外教育訓練ヲ續行ス

第一中隊ハ榆次城内ニ於ケル半永久作業ヲ續行

ス(六日ヨリ作業開始)

七月十三日 師團司令部榆次進駐ス

七月十四日 陽泉ニ在リシ第二中隊ハ榆次ニ移駐

ヲ完了シ通信隊ノ陣容ハ茲ニ整正フ

七月二十九日 通信隊長ハ七月三十日歩兵第六十三旅團

各大隊無線通信手修業下士官兵ノ檢閲ヲ陽泉

ニ於テ實施シ概ネ良好ナル成績ヲ以テ終了ス

八月三日 通信隊ハ步兵第六十四旅團地區ノ通

信線ノ保線ヲ援助スベキ師團命令ニ依リ

第一中隊山本少尉以下三十三名ヲ八月四日

潞安ニ於テ步兵第六十四旅團長ノ指揮ニ

入ラシム

八月九日 初年兵無線通信手本業基本教育

檢閲ヲ實施シ八月十日 概シテ良好ノ成績ヲ

以テ終了ス

八月十五日 師團ハ步兵訓練隊ヲ編成ス通信隊ハ集成一中隊ヲ編成シ步兵訓練隊長上野大佐ノ指揮ニ入ラシム

八月十七日 歩兵第六十三旅團長ハ孟縣壽陽陽曲縣境附近ニ游動シアル第十九團及河南區隊ヲ索メテ撃滅シ企圖シ十七日行動ヲ開始ス

通信隊ハ師團命令ニ基キ無線ニテ分隊ヲ獨立歩兵第十二大隊長ノ指揮ニ入ラシメ師團司令部下歩兵第六十三旅團長及木佐木部隊長間ノ無線連絡ニ任ゼシム、八月二十二日本作戦終了兩分隊ハ原隊ニ歸還ス

八月二十日 通信隊ハ師團命令ニ基キ左記ニ依リ異系通信演習ニ參加ス

自八月二十日 第一期
至八月二十四日

師團旅團大隊内各種異系通信訓練ヲ實施ス

自八月二十五日 第二期
至八月二十八日

軍内各通信部隊相互ニ豫メ協定ノ上異系通信ヲ實施ス

自八月二十九日 第三期
至八月三十一日

軍内各通信部隊相互ニ事前ノ協定ナキ異系通信ヲ實施ス

八月三十一日概ネ良好ノ成績ヲ以テ本演習ヲ終了ス

九月十日 方面軍ハ晉察冀省境方面ノ對共作
戰ヲ企圖ス

師團ハ歩兵第六十三旅團長ノ指揮スル歩兵三大隊
及其ノ他諸隊ヲ方面軍司令官ノ直轄トシテ昭和
十八年度秋季冀西作戰ニ參加セシム

通信隊ハ三號無線二分隊ヲ九月十日陽泉ニ
於テ旅團長ノ指揮ニ入ラシム

補充交代要員五十三名通信隊ニ到着ス

九月十三日 通信隊長ハ獨立歩兵第十二大隊長作
戰參加間榆次駐屯地警備隊長ヲ代行シ榆次駐
屯地各部隊ヲ合セ指揮シ警備ニ任ズ

九月十五日 軍ハ太岳軍區ニ於ケル共產軍ニ對
スル肅正建設ヲ企圖ス
師團ハ有力ナル部隊ヲ以テ北部太岳地區ヨ

リ黄河ニ向ヒ進攻シ敵性ノ剔抉、敵根據地施設ノ
覆滅ヲ目的トシ歩兵第六十四旅團ノ主力ヲ軍ノ
直屬トスルト共ニ該方面ノ總兵力ヲ以テ敵ノ東
方脱逸ヲ阻止ス

通信隊長ハ三號無線三分隊(別ニ五號無線機
一ヲ含ム)ヲ沁縣ニ到ラシメ歩兵第六十四旅團長ノ指
揮ニ入ラシメ師團司令部ト歩兵第六十四旅團司令
部間及旅團内ノ無線連絡ニ任ゼシム

又別ニ三號無線一分隊ヲ九月十五日迄ニ和順
ニ到ラシメ獨立歩兵第十一大隊長ノ指揮ニ入ラ
シム
作戰間三輪大尉ヲシテ作戰通信ノ中隊長タラシ
ム

九月二十日 三號甲無線機十一機定數補填セラ

レタリ

十月七日 奥田伍長以下四〇名ハ第五十三師團

通信隊ニ轉屬ヲ命セラレ輸送指揮官小林大

尉ノ指揮ニ入り檢次出發歸還ノ途ニ就キタリ

十月十二日 待從武官清家大佐來檢セラレ師團司

令部ニ於テ聖旨令旨傳達式ヲ舉行セラル

通信隊長ハ右傳達式ニ於テ在檢次各部隊ヲ指

揮ス

十月十七日 師團長ハ十七十八日沁縣附近ノ作戰警

備ヲ指導シタル後十八日夜戰鬪司令所ヲ潞安

ニ進ム

三輪大尉ハ所要ノ指揮機關ヲ率ヰテ戰鬪司

令所ト同行シ通信指揮ニ任ズ

師團長ハ引續キ潞安附近ノ作戰警備ヲ指導

シ步兵第六十四旅團ノ作戰ヲ容易ナラシメアリ

十八秋太岳地區作戰步兵第六十四旅團ノ狀況

旅團ハ八日來 西林、山本兩部隊ヲ以テ古縣鎮

― 豊儀鎮間ヲ阻止スルト共ニ上妻部隊及

剿共軍第一團ヲ以テ吾元鎮附近ヲ掃蕩中

ナリシガ軍主力ノ南下ニ伴ヒ逐次西林部隊ヲ集

結シ上妻部隊ト共ニ隨所ニ索敵掃蕩シツ、之ヲ

南下セシム一方山本部隊ヲシテ新ニ張店―

傳庄ノ間ニ新阻止線ヲ構成セシム九日虎亭ニテ

剿共軍第一團ノ配屬ヲ解キ新ニ剿共軍第二

師ヲ長子ニ於テ步兵第六十四旅團ノ指揮下ニ入

ラシメラレ十九日他兵團ト協力シ横水村南方ノ

敵ヲ包圍攻撃ス

昭和十八年度秋季冀西作戰步兵第六十三旅團ノ

狀況

旅團ハ舊蟠踞地附近ニ蟄伏游動スル敵ヲ索メテ
夫々擔任地區内ニ於テ活潑ナル掃蕩剔抉ヲ實
施中ナリシガ下口鎮東南方岩壁地帯ニ敵第十
九團主力ノ潜伏シアルヲ知リ十一日ヨリ十四日ノ
間後田部隊、一瀬部隊ノ主力ヲ以テ該敵ヲ包
圍攻撃掃蕩ヲ實施ス
十五日ヨリ各部隊ノ戦闘地境ヲ更メ後田部隊ヲ以
テ洪子店附近、一瀬部隊ヲ以テ下口鎮北方地區、木
佐木部隊ヲ以テ上下薛家河附近ノ索敵、敵根
據地ノ覆滅ニ任ジアリ
配屬各無線分隊ハ終始旅團司令部ト各大隊
間ノ無線連絡ニ任ジアリテ疏通良好ナリ
十月二十二日 陸軍少尉内山明久ハ昭和十八年四月ヨ

リ濟南陸軍病院ニ於テ入院加療中十月十九日附第
五十三師團通信隊附ニ補セラレタリ
獨立歩兵第十一大隊附陸軍兵科見習士官内田
治一ハ九月三十日附第六十二師團通信隊附ヲ命
セラレ二十五日到着ス

十一月十一日 軍八十一月十日ヲ以テ十八秋太岳地
區作戰ヲ一應終了ス

師團ハ作戰終了ニ伴ヒ後方諸部隊ヲ原態勢ニ
復歸セシメ後方業務ヲ處理シアリ
歩兵第六十四旅團長ハ現態勢復歸後引續キ潞
安地區附近ノ肅正討伐ヲ開始ス、師團通信隊
三號無線三分隊(五號機一ヲ含ム)ハ依然前任務ヲ
續行ス

昭和十八年度秋季冀西作戰ニ於テ八歩兵第六十三